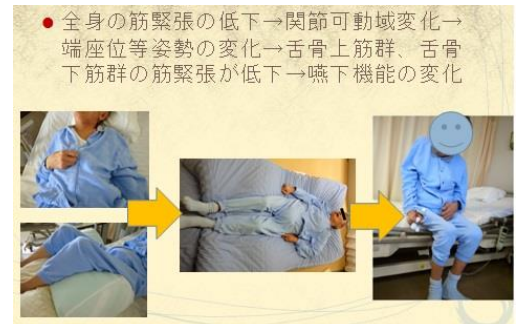


オンライン【ユニリハ】全身の筋緊張制御を行うポジショニング からの摂食嚥下リハビリテーション理論編

摂食嚥下リハビリテーションの新たな視点と介入手段として嚥下機能に働きかける直接的なアプローチではなく、ポジショニングによって間接的に過緊張を緩和したことで、長期療養生活から嚥下訓練に移行した症例がありました。

【長期療養生活6年、ADL全介助の症例に、局所的ではなく、全身の筋緊張を一度に落とすポジショニングを行ったところ、拘縮が変化して端座位や自立、20日後にお楽しみのゼリー食を用いた摂食嚥下訓練の介入に至った。】

第9回摂食嚥下リハビリテーション学会へ口述発表する。



「Zoom」を使用したオンラインセミナーです

・日時 2022年7月29日（金）18:00～21:00

参加費 5980円

・申込URL <https://www.meducation.jp/seminar/detail.php?id=38236>

お問い合わせ 日本ユニバーサルリハビリテーション協会

TEL 042-208-0102

URL <https://universalreha.com/>

身体質量と重力を拮抗させた環境で行うポジショニングアプローチを行う事で、筋緊張が安定し、関節拘縮の変化と長時間持続する臨床研究。それが当協会の「ポジショニング R.E.D.」です。

身体にかかる重力が小さくなり、収縮の必然性がなくなる筋、腱は、柔軟性を取り戻し、神経や感覚入力と相互作用していきます。変化した身体状況は自律神経系の安定（副交感神経優位）や呼吸、循環へと波及し、過緊張、低緊張など異常筋緊張の安定に結びついていきます。

局所的ではなく全身的な筋緊張制御や過緊張の緩和が摂食嚥下機能に及ぼす影響を提案し、その技術論を学んでいただきます。

<プログラム>

- 長期療養生活者の過緊張、関節拘縮の変化から関節可動域が改善した症例を提示し、重力をコントロールしたポジショニングを行うことでの様々な効果を報告する。
- 実際の介入方法や技術論、ポジショニング R.E.D.の具体的内容を伝達。

